

2026 年 10 月 1 日

2027 年スギ・ヒノキ花粉の飛散量は？ウェザーニュース「第一回花粉飛散予想」発表 北・東日本の花粉飛散量は大幅減少、西日本は広範囲で増える見込み ～日照少ない関東は前年の半分の一方、中四国や九州は「表年」で 1.5 倍の地域も～

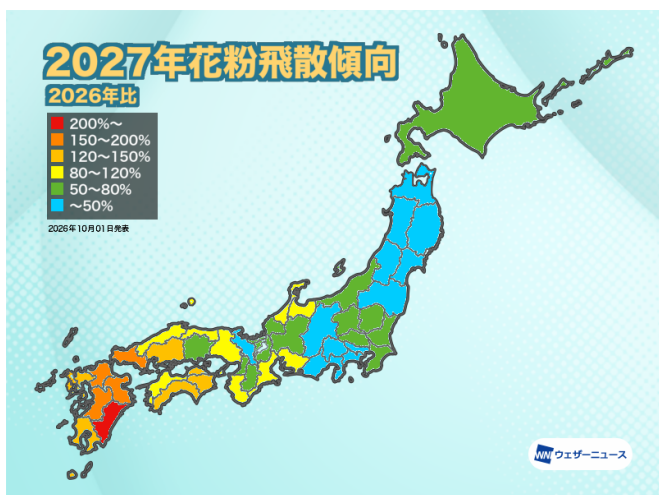
株式会社ウェザーニュース(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:石橋 知博)は、2027 年春の花粉シーズンに向け、「第一回花粉飛散予想」(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)を発表しました。2027 年の花粉飛散量は北海道から近畿で前年を下回るどころが多く、特に関東では前年の 5 割程度、東北では 3 割程度となる予想です。一方、中国や四国、九州では飛散量が前年を上回ると見えています。

2026 年の夏の天候と年ごとの飛散量の増減傾向をもとに 2027 年の花粉飛散量を予想しています。今年の夏は北日本と西日本を中心に気温が高く、日照時間が多くなりました。一方、前線や湿った空気の影響を受けた東北太平洋側や東日本では気温が平年よりやや高く、日照時間は平年をやや下回りました。また、2026 年の春に飛散量が少なかった中国や四国、九州はその反動で飛散量が増える「表年」、2026 年春の飛散量が多かった北・東日本、近畿は飛散量が減少する「裏年」となるとみています。「表年」で気象的な好条件となった中国や四国、九州では飛散量が増える予想で、万全の対策が欠かせません。飛散量が減少する地域でも晴れて風の強い日には大量飛散となるおそれもあるため、油断せずに対策を行うようにしてください。

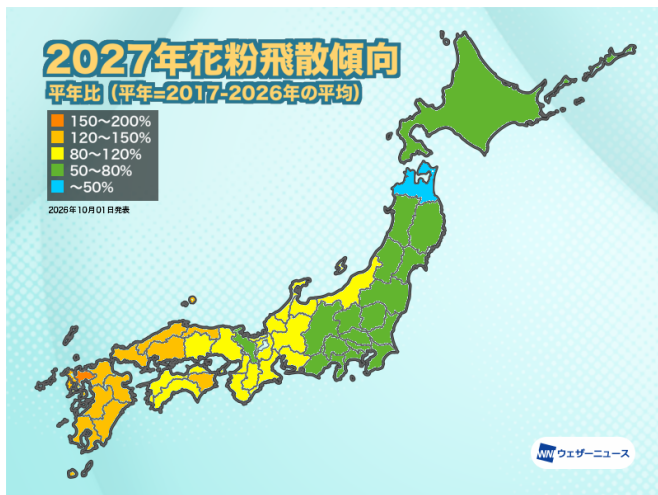
なお、次回の「第二回花粉飛散予想」は 12 月上旬の発表を予定しています。

本プレスリリースの素材のダウンロード	「第一回花粉飛散予想」の一般向けサイト
ウェブ版プレスリリース「第一回花粉飛散予想」 https://jp.weathernews.com/news/57636/	ウェザーニュースウェブサイト「第一回花粉飛散予想」 https://weathernews.jp/news/202610/010081/

◆2027 年「第一回花粉飛散予想」



2027 年花粉飛散予想 (2026 年比)



2027 年花粉飛散予想 (平年比)

<飛散量: 北日本や東日本は平年より少ない傾向 九州は前年比 1.5 倍となる見込み>

2027 年春の花粉飛散量は、中国・四国、九州で 2026 年を上回る一方、北日本や東日本、近畿では下回る予想です。2026 年に記録的な大量飛散となった東北や関東南部、甲信ではその反動で 2026 年比で 50%を下回る

地域が多く、特に青森県では 16%になる予想です。一方、九州など西の地域ほど 2026 年の飛散量が少なく、今夏の気象条件も良かったことが重なって、2026 年比で 150%を超える地域が多くなる見込みです。全国平均では 2026 年比で 67%となる予想です。

平年(2017～2026 年の平均飛散量)と比べると、九州や中国・四国では上回る一方、北日本や東日本では下回る地域が多くなります。平年の半分程度になる地域もある予想です。全国平均では平年比で 88%となる予想です。

＜飛散量予想の根拠:2026 年夏の天候と年ごとの増減傾向＞

花粉の飛散量予想は、主に前年の夏の天候と年ごとの飛散量の増減傾向を基に算出しています。2027 年の飛散量予想の背景は以下の通りです。

～関東や東北太平洋側は夏の日照が少なく雄花の生長に不向き～

前年の夏に十分な日照があり気温が上がるほど光合成が盛んになり、花粉の発生源となる雄花の生長が促される傾向があります。

2026 年の夏は高気圧に覆われ、西日本や北日本で晴れる日が多くなりました。そのため日照時間が多く気温も高くなり、雄花の生長には適した天候となりました。一方、前線や湿った空気の影響を受けた東日本や東北太平洋側では、日照時間が平年よりやや少なくなりました。気温は平年よりもやや高くなったものの前年ほどではありませんでした。

今夏の天候(6～8 月)を総合すると、西日本や北日本では雄花の生長には適した天候となったとみています。一方で、東日本では前線や湿った空気の影響により日照時間が平年を下回り、気温の上昇も前年に比べると抑えられたため、雄花の生長には平年並み、あるいはやや不向きの天候だったと考えられます。

～北日本や東日本で「裏年」、西日本で「表年」傾向～

花粉の飛散量は周期的に変動し、花粉の飛散が多い年と少ない年が交互に訪れる傾向があります。飛散量が多い年を「表年」、少ない年を「裏年」と呼びます。エリアによって増減の周期は異なり、「表年」「裏年」も異なります。夏の天候などの影響で「表年」「裏年」の区別が不明確になる年もあります。

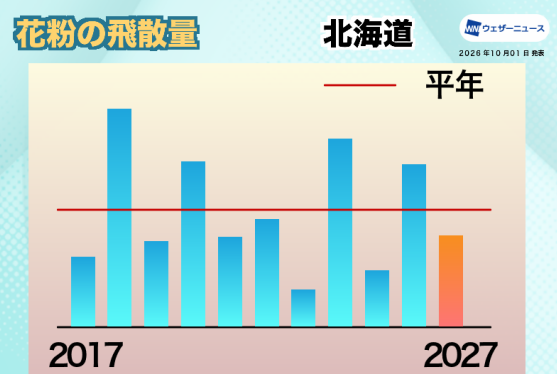
2026 年の飛散量は北日本や東日本、近畿を中心に前年よりも多く、平年比でも大幅に上回る「表年」となった地域が多くなりました。その反動で、2027 年は花粉の飛散量が減少に転じる「裏年」となると見込んでいます。特に 2026 年に大量飛散となった東北や関東南部、甲信では「裏年」の傾向が強く表れ、前年比で 50%を下回る地域が多くなるとみています。一方、九州や中国・四国では、2026 年の飛散量が前年を下回る地域が多くなったため、2027 年は飛散量が増加に転じる「表年」となると予想しています。

◆エリア別の 2027 年花粉飛散予想

北海道:「裏年」の傾向で飛散量は前年の 6 割弱に減少

2026 年の夏は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。気温は平年に比べて高く日照時間も平年を上回って、シラカバの雄花の生長に適した天候となったと考えられます。ただ、2026 年春のシラカバ花粉の飛散量は前年を大きく上回りました。このため 2027 年は前年の反動で飛散量が減少に転じる「裏年」となると見込んでいます。

2027 年春のシラカバ花粉の飛散量は前年の 56%、平年の 77%となる予想です。前年より飛散量は大幅に減少するものの、晴れて風が強い日には大量の花粉が飛散するため、しっかりと花粉対策をしてください。



東北北部:前年の記録的大量飛散の反動で飛散量は大幅減の予想

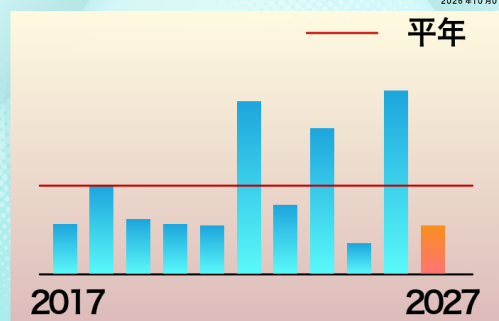
2026 年の夏は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。気温は平年に比べて高く、日照時間も平年を上回って花粉の雄花の生長に適した天候となったと考えられます。ただ、2026 年の花粉は記録的な大量飛散となりました。このため、2027 年は前年の反動で飛散量が減少に転じる「裏年」になると見込んでいます。

2027 年春の花粉の飛散量は前年の 26%、平年の 54%となる予想です。前年に比べると飛散量は大幅に少なくなるものの、晴れて風が強い日には大量の花粉が飛散するため、しっかりと花粉対策をしてください。なお、東北北部ではスギ花粉の飛散が中心で、ヒノキ花粉はほとんど飛散しません。

花粉の飛散量

東北北部

ウェザーニュース
2026年10月01日 発表



東北南部:「裏年」傾向で日照少ない夏 飛散量は大きく減少

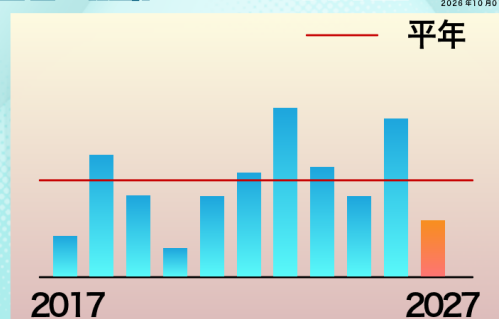
2026 年の夏は前線や湿った空気の影響を受けて、日照時間は太平洋側を中心に平年よりやや少なくなりました。気温は平年より高くなったものの前年ほどではなく、雄花の生長にはやや不向きな天候となったと考えられます。また、2026 年の花粉飛散量は各地で前年を大きく上回りました。このため、2027 年は前年の反動により飛散量が減少に転じる「裏年」になると見込んでいます。

2027 年春の花粉の飛散量は前年の 36%、平年の 58%となる予想です。前年や平年を下回る飛散量となる予想ですが、晴れて風が強い日には大量の花粉が飛散するため、しっかりと花粉対策をしてください。なお、東北南部ではスギ花粉の飛散が中心で、ヒノキ花粉の飛散は比較的少ない傾向です。

花粉の飛散量

東北南部

ウェザーニュース
2026年10月01日 発表



関東・山梨:夏の日照少なく「裏年」傾向で飛散量は大幅減

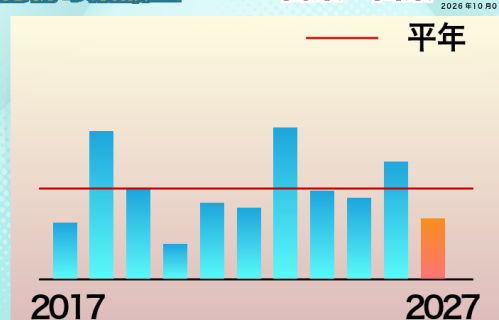
2026 年の夏は前線や湿った空気の影響を受けて、日照時間は平年よりやや少なくなりました。気温は平年に比べてやや高い程度で雄花の生長には通常、あるいはやや不向きな天候だったと考えられます。また、2026 年春の花粉飛散量は前年を上回るエリアと前年並みのエリアが混在しました。このため、2027 年は前年の反動で飛散量が減少に転じる「裏年」傾向が強くなると見込んでいます。

2027 年春の花粉の飛散量はエリア平均で前年の 51%、平年の 66%となる予想です。特に前年の飛散量が多かった東京都では前年比 34%、神奈川県では前年比 35%、山梨県では前年比 38%と前年の半分以下に減少すると予想しています。前年に比べて飛散量が大幅に減少する予想ですが、晴れて風が強い日には大量の花粉が飛散するため、しっかりと花粉対策をしてください。

花粉の飛散量

関東・山梨

ウェザーニュース
2026年10月01日 発表



北陸・長野:高温・多照の夏「裏年」傾向でも飛散量は平年と同程度

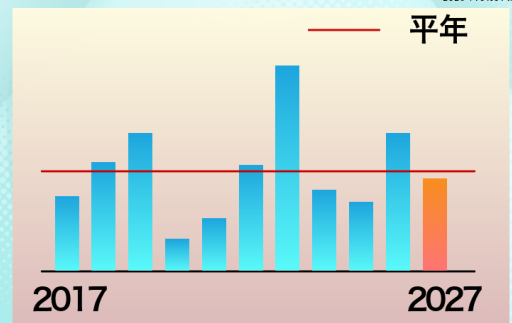
2026 年の夏は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。気温は北陸エリアを中心に平年より高くなり、雄花の生長には適した天候となったと考えられます。ただ、2026 年の花粉飛散量は各地で前年を上回り「表年」となりました。このため、2027 年は前年の反動で飛散量が減少に転じる「裏年」傾向が現れると見込んでいます。

2027 年春の花粉の飛散量はエリア平均で前年の 67%、平年の 92%となる予想です。信越エリアを中心に飛散量が前年より減少する一方、北陸西部では概ね前年並みの飛散量となるとみています。晴れて風が強い日には大量の花粉が飛散するため、しっかりと花粉対策をしてください。なお、北陸エリアではスギ花粉の飛散が中心で、ヒノキ花粉の飛散は比較的少ない傾向です。

花粉の飛散量

北陸・長野

ウェザーニュース
2026年10月01日 発表



東海:「裏年」傾向で飛散量は平年を下回る予想

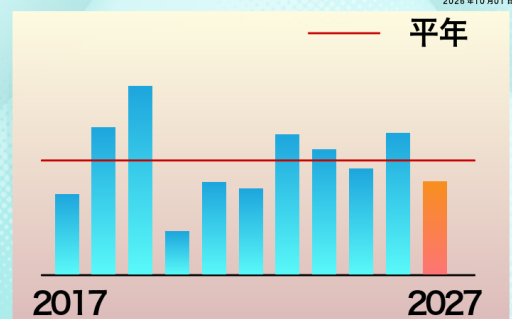
2026 年の夏は太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。気温は平年より高く、雄花の生長に適した天候となりました。一方、2026 年春の花粉飛散量は平年を上回る地域が多くなりました。2027 年は飛散量が減少に転じる「裏年」寄りの傾向になると見込んでいます。

2027 年春の花粉の飛散量はエリア平均で前年の 66%、平年の 81%となる予想です。静岡県や岐阜県では前年に比べて大きく減少する一方、愛知県や三重県では概ね前年並みとなる見込みです。晴れて風が強い日には大量の花粉が飛散するため、しっかりと花粉対策をしてください。

花粉の飛散量

東海

ウェザーニュース
2026年10月01日 発表



近畿:「裏年」傾向も高温・多照の影響で平年並の予想

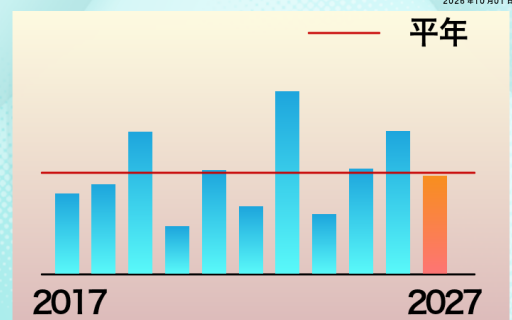
2026 年の夏は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。気温は平年より高く、雄花の生長には適した天候となりました。一方、2026 年春の花粉飛散量は前年を上回る地域が多くなりました。このため、2027 年は前年の反動で飛散量が減少に転じる「裏年」になると見込んでいます。

2027 年春の花粉の飛散量はエリア平均で前年の 68%、平年の 96%となる予想です。特に前年の飛散量が多かった京都府では飛散量が前年を大きく下回る見込みです。前年より飛散量が減少する予想ですが、晴れて風が強い日には大量の花粉が飛散するため、しっかりと花粉対策をしてください。

花粉の飛散量

近畿

ウェザーニュース
2026年10月01日 発表



中国・四国:高温・多照の夏「表年」傾向で前年を上回る予想

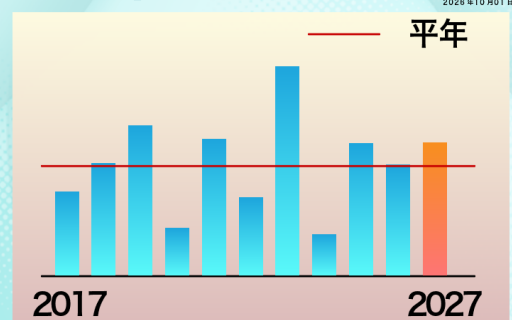
2026 年の夏は高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。気温は平年に比べて高く、日照時間も多くなったため、雄花の生長には適した天候となりました。また、2026 年春の花粉飛散量は前年と比べて減少する地域が多くなりました。このため、2027 年は飛散量が増加に転じる「表年」になる地域が多いと見込んでいます。

2027 年春の花粉の飛散量はエリア平均で前年の 120%、平年の 121%となる予想です。特に前年に大きく飛散量が減少した山口県では飛散量が前年を大きく上回る見込みです。晴れて風が強い日には大量の花粉が飛散するため、しっかりと花粉対策をしてください。

花粉の飛散量

中国・四国

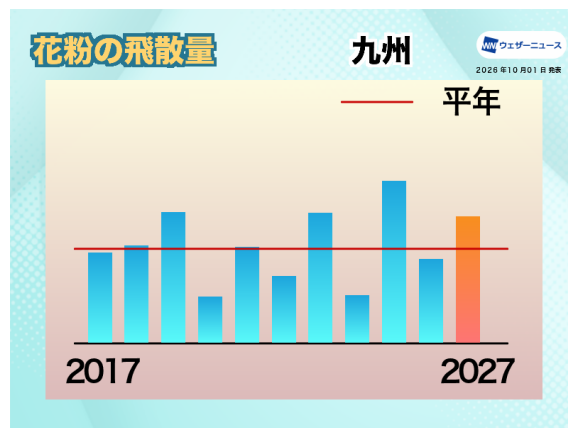
ウェザーニュース
2026年10月01日 発表



九州：高温・多照の夏「表年」傾向で飛散量は大幅増

2026 年の夏は高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。気温は平年に比べてかなり高くなり、日照時間も平年を上回りました。雄花の生長には適した天候であったと考えられます。また、2026 年春の花粉飛散量は全域で前年を下回りました。2027 年は前年の反動により飛散量が増加に転じる「表年」になると見込んでいます。

2027 年春の花粉の飛散量はエリア平均で前年の 151%、平年の 133% となる予想です。特に前年の飛散量が少なかった宮崎県や大分県では前年に比べて大幅に増加する見込みです。前年に比べて飛散量が非常に多くなる予想なので対策を万全に行ってください。特に晴れて風が強い日は大量の花粉が飛散するおそれがあります。



◆都道府県別の 2027 年花粉飛散予想

エリア	都道府県	花粉飛散量 (前年比：%)	花粉飛散量 (平年比：%)	エリア	都道府県	花粉飛散量 (前年比：%)	花粉飛散量 (平年比：%)
北海道	北海道	56	77	近畿	滋賀県	75	105
東北北部	青森県	16	35		京都府	43	76
	岩手県	35	64		大阪府	72	91
	秋田県	36	75		兵庫県	92	106
東北南部	宮城県	43	65		奈良県	66	93
	山形県	28	59		和歌山県	80	109
	福島県	36	52	中国・四国	岡山県	79	95
関東・山梨	茨城県	78	75		広島県	129	124
	栃木県	56	58		鳥取県	108	123
	群馬県	61	73		島根県	112	130
	埼玉県	59	66		山口県	182	145
	千葉県	78	78		徳島県	131	122
	東京都	34	54		香川県	121	114
	神奈川県	35	50		愛媛県	107	110
	山梨県	38	75		高知県	126	118
北陸・長野	長野県	40	76	九州	福岡県	151	124
	新潟県	68	92		佐賀県	137	150
	富山県	100	101		長崎県	137	145
	石川県	85	95		大分県	187	136
	福井県	73	101		熊本県	150	126
東海	静岡県	47	63		宮崎県	205	120
	愛知県	99	97		鹿児島県	122	129
	岐阜県	55	81	全 国		67	88
	三重県	87	89				

※平年：天候の平年は 1991～2020 年の過去 30 年平均、花粉飛散量の平年は 2017～2026 年の過去 10 年平均

※飛散量：花粉観測機「ポールンロボ」が観測すると想定される花粉数。過去のポールンロボの観測データをもとに予想を算出

◇参考: ウェザーニュースの花粉飛散予想と観測網について

ウェザーニュースの「花粉プロジェクト」は、花粉症の方々の役に立ちたい！という想いで、2005 年から実施しているユーザー参加型の取り組みです。全国のご家庭や企業などに、独自開発した花粉観測機「ポールンロボ」を約 1,000 台設置し、空気中に含まれる花粉をリアルタイムに観測します。

本プレスリリースでは、これまで「花粉プロジェクト」で蓄積してきた花粉の観測データ、年ごとの飛散量傾向、今夏の天候をもとに来シーズンの花粉飛散予想を発表しています。また、11 月に全国のウェザーニュースアプリのユーザーと花粉の雄花の生長状況を調査する「雄花調査」を実施し、必要に応じて飛散量予想を更新する予定です。なお、「第二回花粉飛散予想」は、飛散量予想に加えて飛散開始時期や飛散ピークについてまとめ、12 月上旬に発表予定です。



花粉観測機「ポールンロボ」設置イメージ

ウェザーニュースは、「花粉プロジェクト」の取り組みや花粉飛散予想の発表、ウェザーニュース「花粉情報」での発信などを通じて、花粉症の方が少しでも楽に過ごせるよう、サポートを続けてまいります。